魅力あるベルリン日本人国際学校をめざして

── プロジェクト編成と各種評価に基づく改善を通して ──

前ベルリン日本人国際学校　校長
佐賀県江北町立江北小学校　校長　川　﨑　信　幸

キーワード：プロジェクト，各種評価，ベルリンだからこそ，意識の変容

1．はじめに

数々の歴史の舞台となったヨーロッパ屈指の国際都市ベルリン市は，人口約340万人。昔より政治・文化・芸術の都として栄え，21世紀にはドイツ連邦共和国の首都としての発展が大きく約束されている都市でもある。

そのベルリン市の南西部シュテグリッツ・ツェーレンドルフ区ヴァンゼーの閑静なたたずまいの中にベルリン日本人国際学校は位置している。平成５年４月に「共益法人ベルリン日本人国際学校」としてベルリン市当局より「公示」され，日本の文部省より「認可」を受け設立された。以来，ドイツ連邦共和国の首都に存する日本人学校として，小規模校ながらもベルリン市及びその周辺に在住する日本人，その他あらゆる国籍の子弟のための教育に貢献している。私は，５代目校長として，平成17年度に赴任して３年間勤務させていただいた。

児童生徒数は20数名の本当に小さな学校ではあったが，常に，魅力あるベルリン日本人国際学校をめざして，また30名を超えることを大きな目標にし，これまでに先人が築かれてきた数多くの学校行事等の財産を基盤に教職員が一丸となって全力を尽くしてきた。

教育目標を具現化していくためのプロジェクトと各種評価活動について紹介したい。

2．教育目標具現化の方策としてのプロジェクト編成と各種評価

魅力ある学校とは，特色ある教育課程を編成することはもとより，「自ら考え、正しく判断して行動する国際性豊かな子どもを育成する」という教育目標を具現化することであり，それはまた，保護者の信頼に応える教育活動を展開することととらえた。

教育目標及び経営方針等については，次の通りである。

(1)

教育目標；自ら学び，正しく判断して行動する国際性豊かな子どもを育成する

【 教育目標の具現化 ＝ 信頼を得る教育活動の積み重ね 】

教師と子ども・子ども同士・教師と保護者（信頼関係の構築）学校と保護者（在留邦人）

(2) 基本的な学校経営方針

① 「本校設立の目的」の精神に則り、海外校の特長を生かした教育活動の実践
② 全教職員の経営参加による協働実践【認め・支え・高め合う 職員集団】
③ 校務分掌の効果的な運用と評価の活用

(3) 最重要課題

① 確かな学力の向上
② 国際理解教育の推進

(4) 具現化のために教育目標（最重要課題）と直結したプロジェクトを編成【H18年度から】

学力向上推進プロジェクト
主任を中心に
① 学力向上施策
② 校内研究会
③ 職員研修 等

国際理解教育推進プロジェクト
主任を中心に
① 現地理解教育
② 現地校等交流行事
③ 各教科等との関連

※ 時数管理，行事内容，日程等の連絡調整を「教務主任」と行う

(5) 評価活動の年間計画

学期		各部立案（行事等）	学級経営
一学期	4月 ↓ 7月	・行事計画案（P） （D）	（D）
		・学期末に「評価」（S）の実施 含児童評価	
二学期	9月 ↓ 12月	（D）	（D）
		・学期末に「評価」（C）の実施 含児童評価	
		【学校評価】(1) 教職員 (2) 保護者	
三学期	↓ 3月	学校評価の結果を分析して 「新年度計画」を策定するとともに 『教育計画』冊子を作成する	

※ 評価に当たっての留意点

(1) 評価の目的を明確にする。

①評価の意義と評価項目の重視

②次年度の改善へ＝評価の視点＝

ア 学校の教育目標と直結
イ 子ども主体
ウ 教育的価値

③評価の実施によって学校の課題，児童の実態が目に見えるように（次の課題への共有化）する。

④計画立案（P）に際しては，目的・内容・方法を明確にする。

3．評価活動の実際と改善

(1) 学期末の評価と改善例

各学期末に児童評価を含めて内部評価を行い，即次学期及び新年度の教育計画策定に生かすようにした。例えば平成17年度1学期末は，改善意見から次のように改善した。

① 朝の打合せの時間

☆現行の週4回を半分の2回に減らしてもよい。

☆ 8：15 ～ 8：30 にできないか。（※ 朝の会を 8：30 ～ 8：40 必ず8：45には1校時をスタート）

ア）週2回（「月」と「木」とする）に減らす。 イ）「8：25 ～ 8：35」で時間を厳守する。

② スピーチ朝会

☆しっかりとした「ねらい」や「めあて」が明確でなく，工夫の余地がある。何をどうして誰にどのように伝えるのかが指導されて，初めてスピーチに意味がある。しっかり話すことをねらいとするなら，授業の中で全職員が意識的にさせていく必要があるし，内容もしっかり決められた方がよい。

☆学年に応じて「ねらい」を明確にしたい。どこまで指導するかの共通理解が必要。

ア）「ねらい」や「めあて」を明確にする。国語担当で，低中高の目標等を作る。
イ）「スピーチ朝会」「全校朝会」「児童生徒朝会」の3本立てとする。

③ 学力の向上について

「国語力の育成」の具現化に向け動いていく（言葉，漢字の定着等）。

☆個人差があるので、幅のあるドリルがあるとよい。1級～5級を全校一斉で行う。

☆「わかること」「できるようになること」が子どもたちの本当の喜びにつながることを，私たちが再認識したい。

ア)「学力向上対策委員長」を校務分掌に新設する。委員長は「〇〇教諭」とする。
イ)「委員長」を中心にして，学力向上の方策を２学期から具体化する。

以上のように１学期末に提出された改善案が，即２学期からの教育活動から実施された。特に，スピーチ朝会については，１年目２学期以降から２年目に，さらに３年目へと進化を遂げ，表現力の育成とともにコミュニケーション能力育成までに大きく発展した。

学力の向上についても，２年目からは学力向上推進プロジェクトの施策により，国語・算数（数学）を核とした日々の授業とつながって，児童生徒一人一人の学力向上に直接寄与する内容の濃い校内研究会へと充実，発展した。

４．国際理解教育推進プロジェクト

在外教育施設としての使命は，保護者のニーズに応えられる学力向上を図ることであるが，もう一つは，在外にあることの意義と地の利を生かした現地理解教育をいかに，意図的，計画的，効率的に実践するかである。そこで，学校の財産として現にある行事等を国際理解教育プロジェクトにより，次のように整理統合し，推進してもらった。特に，評価活動や改善意見をもとに，各領域毎に，明確な「方針」を示したところに活性化の原動力がある。中でも，「ベルリンだからこそできる行事」が合い言葉となった。

学期	現地理解活動（行事・各教科等）	交　流　活　動	英会話・ドイツ語
方針	①ベルリンだからこそできる行事に積極的に参加させる。 ②活動にあたっては，必ず事前学習をもって臨む。事後学習では様々な方法で表現させ，わかったことを「伝える」場を設定する。	①ドイツを理解するためでなく日本を知ってもらうための活動の機会と。 ②「地の利」を生かし，隣接校及び姉妹校との交流が日常生活の中でできるように支援していく。	①習熟度別クラス編成をもとに日常生活で使える文を重点的に。 ②交流活動等の前に，あらかじめ使用されると思われるドイツ語を学習させる。
一学期	①歓迎遠足　②運動会 （隣接校及び姉妹校を招待） ③修学旅行（隔年実施） ④夏季学校	①シュールフェスト （コンラード校「学校祭」への参加）	①運動会における挨拶等に向けたドイツ語学習 ②修学旅行等に向けたドイツ語の練習
二学期	⑤秋季遠足　⑥ドイツの交通安全教室（ドイツの交通ルール） ⑦学校祭（ドイツ語劇） ⑧シュタッツオパー見学 ⑨校外社会学習（各学年） ⑩その他（社会・理科）見学 ・警察署・消防署・スーパーマーケット・水道局など	②ブンデス・ユーゲント・シュピーレ　③体験授業（コンラード校）　④文化交流（本校へ招待）　⑤スポーツ交流　⑥ドイツ語劇（コンラード校へ公演）⑦姉妹校へ出張公演⑧クリスマス飾り作り（姉妹校へ）	③学校祭に向けたドイツ語劇の練習　④文化交流に向けたドイツ語の練習　⑤適宜コンラード校の英語の授業に参加する　⑥クリスマス飾りに向けたドイツ語練習
三学期	⑪グリュネ・ボッヘ学習 （メッセ見学）	⑨お正月餅つき大会 （ベルリン日本語補習授業校へ招待）	⑦グリュネ・ボッヘ見学に向けたドイツ語練習

５．意識の変容と活性化

魅力ある学校づくりは，一握りの教員だけで，また，一朝一夕では決してできるものではない。先人が心血を注ぎ，築きあげた基盤をもとに全教職員が同じ方向を向いて，つまりは，明確なる教育目標と具体的な教育活動を通してである。

その一つの方策が，「各種評価」である。在外では，記録が不可欠であり，ベルリン日本人国際学校でも計画立案作成の基となる資料は残されていた。今，国内に戻って振り返るならば，ベルリン日本人国際学校でのよさは，各行事の終了後になされる「評価」に基づく改善意見が，ほとんど次の計画立案に生かされていたということである。

それは，下表のとおりの流れであり，もっと言えば，どの行事でも大胆，斬新な発想に基づき，前年度よりも「付加価値」がついていたことである。担当となる先生は，児童生徒に「こんな体験をさせたい」「ベルリンにいるからこそできる体験行事を」という強い願いと思いで，新しい視点で計画立案し，そのことが児童生徒の自主的，主体的な活動につながり，学校全体のあらゆる教育活動で活性化したものと確信する。

計画立案（緻密） ⇨ 実　践（臨機応変） ⇨ 評　価（教育目標と直結） ⇨ 計画立案（大胆発想）※ 付加価値 ⇨

【例】

①ワールドカップをメインにした修学旅行　②Song of World

③有森裕子さん招聘　④小澤征爾ベルフィルリハーサル見学　⑤スピーチ朝会 等

６．おわりに

魅力ある学校づくりがどの程度達成できたか，それはわからない。しかし，今，ベルリン日本人国際学校の教育活動を振り返るとき，全教職員と児童生徒が一つになって共に高い志を抱き，共に知恵と汗を流し，全力を尽くしたことは間違いない。

最後に，児童生徒数の推移（平成20年４月，30名超を達成）と保護者による評価結果を示して終わりとしたい。

(1) 児童生徒数の推移

平成/年	5	6	7		14	15	16	17	18	19	20
児童生徒数	13	12	16		23	26	21	25	21	22	33
派遣教員数	5	6	7		8	9	9	9	8	8	7

(2) 保護者評価結果（平成19年度実施）

①学校の方針や取り組み全般に関すること

	◎	○	△	▲
学校は教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている	65%	35%	0	0
学校はベルリンだからこそできる特色ある教育活動を行っている	81%	19%	0	0
学校は保護者が連絡したことに対応している	64%	32%	5%	0
学校の教育に満足している	71%	19%	0	0

②児童生徒の様子と教師の指導について

子どもは授業を理解している	73%	23%	5%	0
先生は子どもに学力を育てようとしている	73%	23%	5%	0
先生は子どもに豊かな心を育てようとしている	82%	14%	5%	0